



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「降誕劇」

アメリカのある小さな村で起こった出来事です。クリスマスには村中の人たちが教会堂に集まって、みんなで楽しい一日を過ごしました。一番の楽しみはクリスマス劇です。おじいさんやおばあさんたち、お母さんやお父さんたち、お姉さんやお兄さんたちが順番に、イエス様誕生の劇をします。その年は子どもたちの順番でした。十月に入ると、教会学校の先生たちが村中の子どもたちを集めました。そして劇の役を決めました。マリア、ヨセフ、羊飼いたち、博士たち、牛や馬、天使たちなど、子どもたちはみんな自分の役をもらいました。ところが、一人の知恵おくれの少年が役をもらっていなかったことに、先生たちは気づきました。そしてその少年のために役を作りました。イエス様が生まれることになる馬小屋の子どもの役でした。マリヤとヨセフがやって来たとき、旅館の前に立って「部屋はない」と大声で言って、うるの馬小屋を指さすのです。少年は喜びました。そして来る日も来る日も、家で練習を繰り返しました。いよいよ十二月二十五日、村中の人たちが教会に集まりました。村はからっぽになりました。そして一番の楽しみである子どもたちのクリスマス劇が始まり、最後の舞台の幕が上がりました。どっぷりと日が落ちたベツレヘムの村のはずれの旅館の前に、あの少年が立っています。そこにマリアとヨセフがやって来ました。「私たちが泊めて下さい」「ダメだ。部屋はない」。そして馬小屋を指しました。マリアとヨセフが重い足を引きずるようにして、少年の前を通って裏の馬小屋に向かって歩いて行きました。じつとその後姿を見ていた少年の目に涙が溢れました。少年はわっと泣き出しました。そしてヨセフにしがみついていた少年の目に涙が溢れました。少年は馬小屋に行かないで僕の家に来て。僕の家泊まって!。劇は中断しました。教会学校の先生が舞台にとび上がって、ヨセフにしがみついている少年を引き離しました。長い村の歴史の中で、これほど感動を呼んだクリスマス劇は後にも先にもありませんでした。

ルカ二章に、「客間には彼らのいる余地がなかった」(7)とある。健常者であれば、劇中で自分のパートをこなすだけで、このように劇がぶち壊しになるようなことはあり得なかったであろう。でも、この知恵遅れの子であればこそ、そのような感動を作り出すことができたのである。果たして、どちらに知恵があるのかと、はたと考えてしまう。この子こそ、マリアたちを迎える心の余地があったと言えよう。その様な心には、知恵を超えた温かな感動が宿っている。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

